

気まぐれ通信

vol. 9



石岡で子牛も合わせ
約40頭の牛を「牛も
人間も健康で豊かに」
をモットーに育てる
石岡鈴木牧場の日々
を綴ります。

連載

鈴木牧場に

この人あり

現在の鈴木牧場があるのは「人」
とのご縁があったから。そんな
素敵な人々を少しずつご紹介し
ていきます。

第1回

熊谷宏先生(故)

(獣医師・酪農コンサルタント)



酪農コンサルタントの熊谷先生と出会ったのは昭和62年に参加した講演会でした。当時は乳量を増やすことが第一の方法で牛を飼っていました。牛乳をたくさん搾ることや牛に負担がかかり病気が発生、牛舎に行くのがつらい時があるほど悩んでいたため、各地の講演会に出向き模索していろいろ学びました。

衝撃を受けた熊谷先生の教え

熊谷先生のポリシーは「健康な牛を飼う」たとえ乳量が減ろうとも、牛の健康を第一に考えた飼料を給与すれば病気が減り、人間の負担も減る、結果的には経営も良くなるという、過去の講演会では聞いたことがないもの

でした。スライドなどの事例を交えた先生の話に、私の求めたのはこれだと確信したのです。

ごまかしの無い熊谷先生の言葉

熊谷先生のやり方は直接指導をあおぐのが一番だと判断し、同じ組合の有志を募って、熊谷先生から学ぶ「ベアークラブ」という名の勉強会を作りました。(発足当初の参加者は11名)

先生の指導を受けている北海道の酪農家を見学する他、一番重要としたのはグルーペンバーの牛舎で先生から直接指導してもらった事(バーミンギーティング)。これを年2回(各5日間ずつ計10日間)続けました。「健康な牛のための良い飼料。そのための健康な土作り、堆肥作り」。何度となく言われ目指していたものの、形にするのは難しく試行錯誤の連続でした。熊谷先生は常に核心をごまかさずに問題を指摘し、時には出来の悪い飼料を「捨てる！」と言う事もありました。

それでも始めから10年くらいたつた、牛の体の色艶や当牧場で育った飼料の質が良くなった手ごたえが感じられ、ついに先生から「合格」のお墨付きをもらいました。土作りを大切にすると当牧場の原点は、こんな熊谷先生との出会いにあるのです。

我が家のマダムたち

鈴木牧場の乳製品は、みんな愛くるしい牛たちの牛乳で作られています。みんな表情が違いますよ。

アンジェリーナ

2007年7月21日生
お産回数2回



当牧場のトレードマークのモデル・アイスの孫。穏やかな性格

アンジェリカ

2012年6月30日生
お産はまだ未経験



アンジェリーナの娘。同じ年生まれの仲間が多く今後が楽しみ。

ギューギュー

2012年1月11日生
お産はまだ未経験



ほぼ大人の体つき。もう少ししたらマダムの仲間入りかも。

未来のマダム

未来のマダム

飼料用
トウモロコシも
すくすく生育中



7/15の様子

牧草刈りが終わり、飼料用のトウモロコシを播種。膝下位まで伸びました。